

2011年1月31日

各 位

オリックス株式会社  
(コード番号:8591)

**2011年3月期 第3四半期連結決算(4月～12月)**  
**当期純利益は前年同期比85%増の508億円**  
**～当期純利益の通期見通しを670億円と18%上方修正～**

2011年3月期第3四半期(2010年4月1日～2010年12月31日)の米国会計基準連結決算における税引前当期純利益は、前年同期比108%増の746億円、当期純利益は、同85%増の508億円となりました。事業部門別においては、全セグメントにおいて3四半期連続で黒字となりました。

なお、当期純利益は、「法人金融サービス事業部門」「海外事業部門」「リテール事業部門」などが期初の見通しより好調に推移した結果、期初の通期予想570億円に対して当第3四半期でおよそ89%の進捗となり、通期見通しを670億円へ上方修正しました。

通期の連結当期純利益予想の修正について

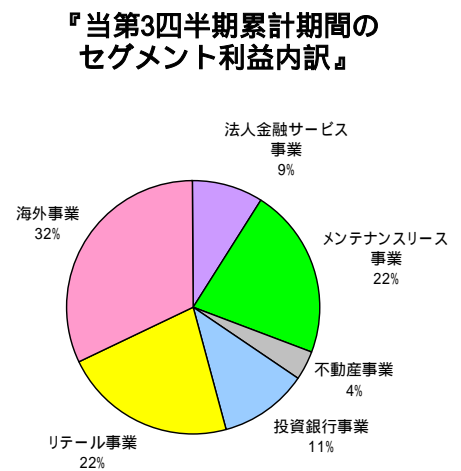
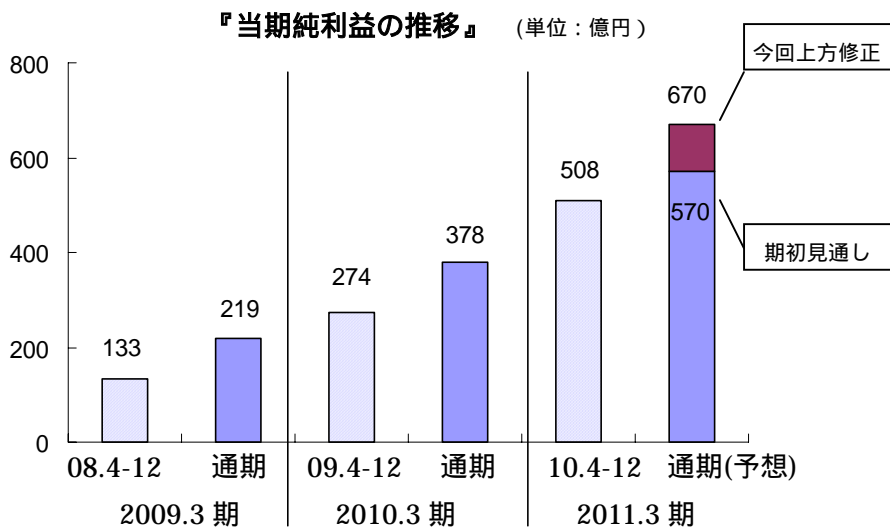
	当期純利益 ( 1 )
前回発表予想 ( A )	570億円
今回修正予想 ( B )	670億円
増減額 ( B-A )	100億円
増減率	18%
( 参考 ) 前期実績 ( 2010年3月期 )	378億円
今回修正予想 / 前期実績 ( 増減率 )	77%

主な経営指標の推移

	2009.4-12	2010.4-12	増減率
営業収益	6,806 億円	7,062 億円	4%
税引前当期純利益	359 億円	746 億円	108%
当期純利益 ( 1 )	274 億円	508 億円	85%

	2010.3	2010.12	増減率
総資産 ( 2 )	77,398 億円	85,294 億円	10%
セグメント資産	62,843 億円	62,096 億円	1%
株主資本	12,987 億円	12,958 億円	0%
株主資本比率	16.8%	15.2%	-

- ( 1 ) 「当期純利益」は、決算短信などの財務諸表で記載している「当社株主に帰属する四半期当期純利益」と同じです。
- ( 2 ) 「総資産」は、米国財務会計基準変更に伴い、当連結会計年度より連結する変動持分事業体 ( VIE ) が増加した結果、増加しています。詳細については決算短信および補足資料をご覧ください。



各セグメントの業績概要 (2010年4月1日～2010年12月31日)

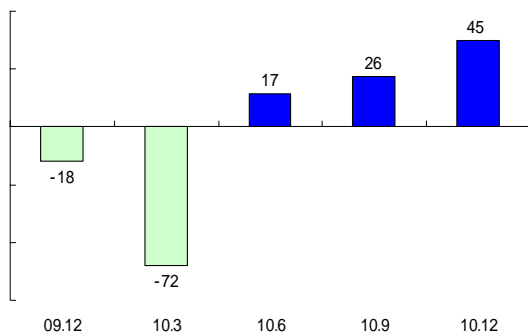
当期は、3四半期連続で全セグメントにおいて黒字を計上しました。また、前年同期累計額と比較すると、「不動産事業部門」を除く全事業部門で増益となりました。

「法人金融サービス事業部門」の業績が回復基調にあるとともに、「メンテナンスリース事業部門」「リテール事業部門」「海外事業部門」の業績は引き続き順調に推移しています。

【法人金融サービス事業部門】

融資、リース、金融商品販売などの手数料ビジネス、環境関連ビジネス

< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)

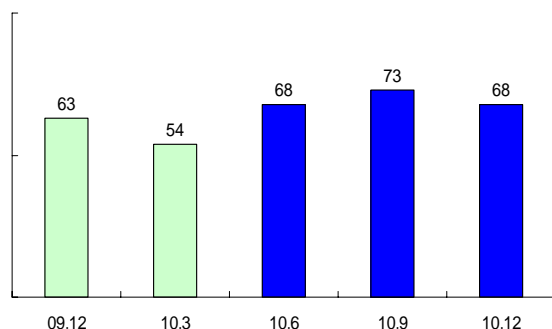


- ・ M&A やリース債権買取など小口優良資産の積み上げにより収益増加。
- ・ 環境・エネルギー事業における収益も徐々に貢献。
- ・ 貸倒引当金繰入額が大幅に減少し、セグメント費用は前年同期に比べ減少。
- ・ 当第3四半期累計期間のセグメント利益は、前年同期の118億円の損失から88億円の利益に。

【メンテナンスリース事業部門】

自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、測定機器・情報関連機器などのレンタルおよびリース

< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)

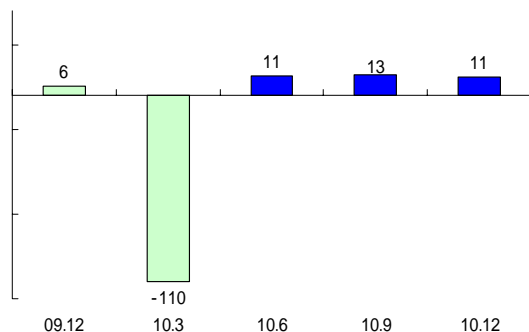


- ・ 企業のコスト削減ニーズなどに対応した高付加価値サービスを提供し、収益は安定。
- ・ 車両の売却やメンテナンスサービスからの収益が堅調推移。
- ・ 当第3四半期累計期間のセグメント利益は、前年同期の179億円の利益から208億円の利益に。

## 【不動産事業部門】

オフィスビル・商業施設などの開発・賃貸、マンション分譲、ホテル・ゴルフ場・研修所などの運営、高齢者向け住宅の開発・運営、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理、不動産投資顧問、不動産ファイナンス

< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)

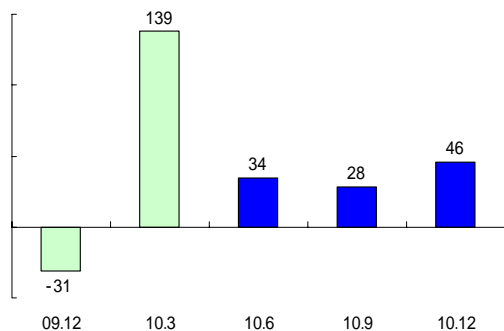


- ・ 賃貸不動産のリーシングと資産の回転に注力し、低い空室率と安定的な利回りを維持。
- ・ ホテル、旅館、ゴルフ場などの運営事業は安定的に推移。
- ・ 当第3四半期累計期間のセグメント利益は、前年同期の111億円の利益から35億円の利益に。

## 【投資銀行事業部門】

サービサー（債権回収）、プリンシパル・インベストメント、M & Aアドバイザー、ベンチャーキャピタル、証券

< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)

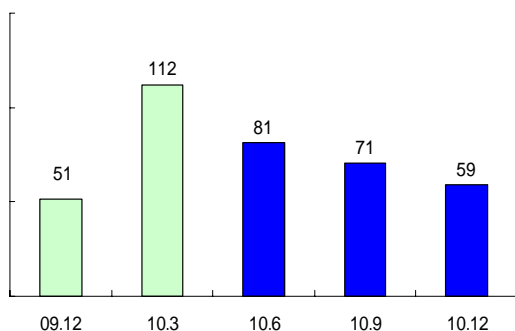


- ・ サービサー事業による貸付金収益が、前年同期に比べ増加。
- ・ 投資案件の売却に伴うキャピタルゲインを実現。
- ・ 当第3四半期累計期間のセグメント利益は、前年同期の167億円の損失から109億円の利益に。

## 【リテール事業部門】

生命保険、信託銀行、関連会社のカードローン・オンライン証券

< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)

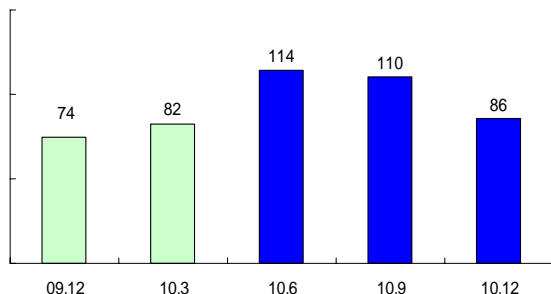


- ・ 生命保険事業は、保険契約数の増加により保険収益が好調で、運用収益も堅調に推移。
- ・ 信託銀行事業は、住宅ローンや法人向け融資が増加し、収益、利益ともに拡大。
- ・ 当第3四半期累計期間のセグメント利益は、前年同期の199億円の利益から211億円の利益に。

## 【海外事業部門】

リース、融資、債券投資、投資銀行、不動産関連、船舶・航空機関連

< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)



- ・ アジアの現地法人の収益が安定的に推移。
- ・ アメリカのレッドキャピタル社が収益貢献。
- ・ 中国、ベトナム、韓国での投資や航空機事業での投資によりセグメント資産は増加し、多様な収益基盤を確保。
- ・ 当第3四半期累計期間のセグメント利益は、前年同期の289億円の利益から310億円の利益に。

オリックスグループは、多角化したポートフォリオによる事業展開を軸としながら、金融に専門性を結びつけた「金融＋サービス」事業をさらに進化・成長させていきます。また、アジアを中心に専門性のグローバル展開を強く推進することで、収益力の強化を図り、中期目標であるROE10%の実現を目指します。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL : [http://www.orix.co.jp/grp/ir\\_j/data/](http://www.orix.co.jp/grp/ir_j/data/)

以上

< 本件に関するお問い合わせ先 >

広報部 池田・堀井 / 経営企画部 IR チーム 富永・竹村

TEL : 03-5419-5102